



名言から学ぶ
恋愛観 その4



kamitasaki

『ほどほどに愛しなさい。長続きする恋はそういう恋だよ。』

by シェイクスピア

「何事もほどほどが一番！」

・・・なんてよくいうけど、私は愛情を注ぐことだけは真摯に取り組んで行かないといけないと思っていた。

私がそうであるから、相手にもそうでなくてはならないと勝手に思っていたからだ。

だが、よく考えてみるとそれもほどほどが一番だということがよく分かる。

もし、愛することを真摯に取り組んでいたら・・・恐ろしいとしかいえない。

それは、愛情をはき違えてあらぬ方向に愛情を注いでしまう可能性があるからだ。

行き過ぎた愛情を相手に与えてしまえば、それは愛情ではなくなってしまう。

シェイクスピアさんのこの「ほどほどに愛しなさい」という言葉には私の知らなかった真実が隠されていた。

そして、ほどほどに愛することが長続きのコツであるという。

これについてもよく考えてみた。

なんとなくだが、少年期に異性の子が好きすぎていじめてしまう原理とよく似ていると思った。

まだ愛する意味を分からずに、どうすれば分からず暴力をふるうことしかできない。

好きすぎてますます歯止めが利かなくなり、最終的には大好きな異性から嫌われてしまうという悲しい結末に。

愛する気持ちが高いばかりに起きてしまうことだ。

この時に「ほどほどに愛する」ことを知っていた場合はどうなるのだろう。

もしかしたらその子の恋は長続きして恋愛関係までに発展したかもしれない。

それに幼少期に出会った初恋の人と結婚したという事例もある。

長続きの秘訣は「ほどほど」にすることが何よりもいいのかもしれない。

それでも、この言葉を真に受けすぎてしまい、ほどほどすぎて二人の間に溝ができてしまわないように気をつければ・・・。

「何事もほどほどが一番」ということがこの名言からひしひしと伝わってきます。